

島原温泉給湯 50周年

特別コラムNo.1



温泉給湯管布設 (昭和42年 みなと商店街)

1967年(昭和42年)に島原市温泉給湯事業の温泉供給が開始されてから、今年で50周年を迎えます。この節目の年に、市民皆さんに「島原温泉」の魅力について、さらに知ってもらうとともに、親しみを感じていただけるような情報をお届けします。

第1回目は「島原温泉の開発の歴史」について紹介します。

島原温泉の開発の歴史

歴史豊かな城下町しまばらには、全国的に有名な温泉地である雲仙や小浜が近隣にありながら、温泉がなかったことから、観光でも遅れをとっていました。

そのような中、さらなる繁栄のため、先人の「島原温泉」

に対する熱意や温泉開発にかける意欲は高く、昭和10年から数多くの温泉掘削で困難に立ち向かいながら、昭和42年現在の観音島源泉を掘り当てたことにより、ついに念願の「泉都島原」が実現したのです。



掘削が成功し自噴する観音島源泉 (昭和42年)

◆島原温泉開発年表◆

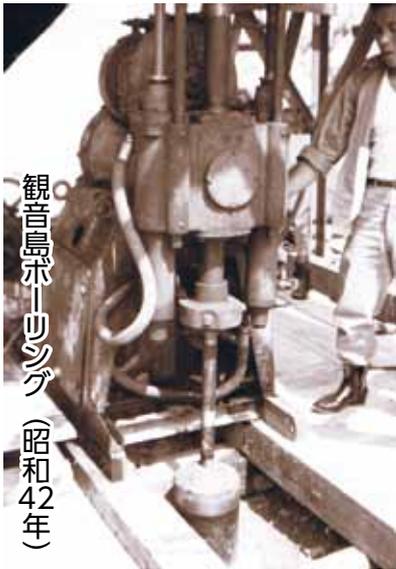
西暦 (和暦)	内容
1935年 (昭和10年)	<p>『島原振興会』設立(当時の植木市長が会長)</p> <p>▼資金不足で工事中止</p> <p>島原市初の温泉掘削(坂下町)</p>
1942年 (昭和17年)	<p>『太平洋戦争による資金、人手不足で工事中止』</p> <p>く戦後、温泉開発の機運が再燃く</p> <p>温泉掘削(白山町、八夕池付近) 温泉湧出35℃</p>
1948年 (昭和23年)	<p>『島原温泉掘さく協会』設立(当時の中岡市長が会長)</p> <p>▼市内各地で温泉探査を実施</p>

1

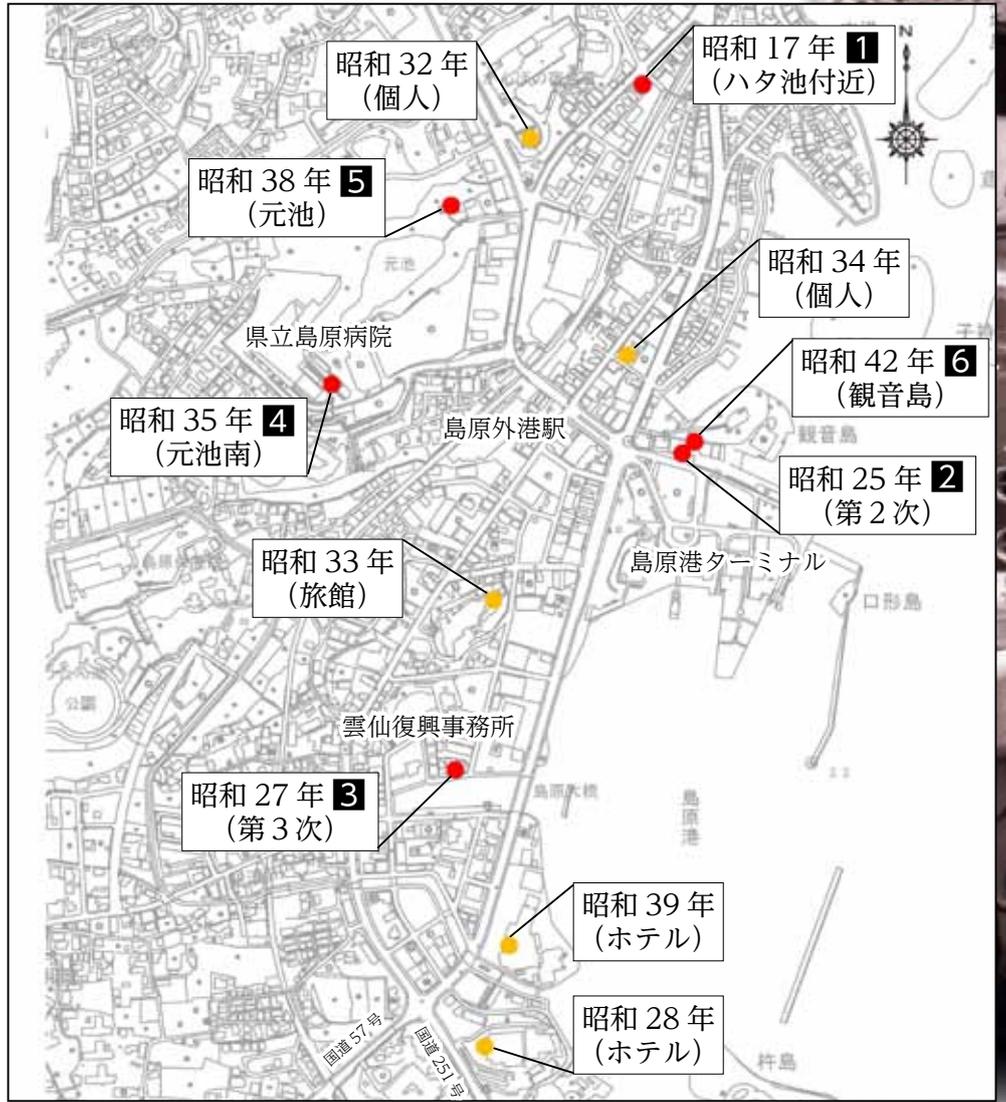
主な温泉掘削状況(昭和17年～42年)



観音島での温泉掘削起正式
(昭和42年)



観音島ボローンダ
(昭和42年)



次回は「島原市の温泉給湯事業」について紹介します。

1967年 (昭和42年)	1966年 (昭和41年)	1963年 (昭和38年)	1962年 (昭和37年)	1960年 (昭和35年)	1952年 (昭和27年)	1950年 (昭和25年)	1949年 (昭和24年)
<p>温泉掘削(湊町、観音島源泉) 温泉湧出31℃ (島原市温泉給湯事業)</p> <p>温泉給湯施設や温泉給湯管を整備</p> <p>温泉供給スタート(同年10月1日)</p> <p>供給開始時は旅館・ホテルの普通供給として 14軒(日量369トン)</p> <p>6</p>	<p>島原市広報で「泉都化」への青写真を発表</p> <p>温泉給湯事業を市が経営し、当時全国でも珍しい「温泉集中管理」とする計画で島原市温泉給湯事業が開始</p> <p>5</p>	<p>島原市広報で「泉都化構想」を発表</p> <p>温泉掘削(下川尻町、元池源泉) 温泉湧出31℃ (山本富治氏が掘削)</p> <p>昭和42年から湧出量の半分を旧島原簡易保険保養センターと残りの半分を島原市温泉給湯事業とで利用</p> <p>4</p>	<p>温泉掘削(県立島原温泉病院敷地内、元池南源泉) 温泉湧出35・5℃ (島原温泉観光株式会社と島原市の共同作業)</p> <p>昭和41年に県立島原温泉病院として開院</p> <p>3</p>	<p>温泉掘削(下川尻町、元池源泉) 温泉湧出23℃ 第3次温泉掘削(南下川尻町) 温泉湧出23℃ 孔壁崩壊などにより工事中止</p> <p>2</p>	<p>『島原温泉開発委員会』設立(島原温泉掘さく協会、島原市議会、島原市の三者)</p> <p>掘削孔内での事故により工事中止</p> <p>第2次温泉掘削(下川尻町) 温泉湧出32℃</p> <p>1</p>	<p>温泉掘り当てでできず工事中止</p> <p>第1次温泉掘削(南千本木町)</p> <p>1</p>	

▼問い合わせ先 しまばら観光おもてなし課
温泉・観光施設班 (☎③11111内線213)